

〈特集「アスペクト」「モダリティ」〉

## カトマンズ・ネパール語のアスペクト・モダリティ Aspect and Modality in Kathmandu Newar

桐生 和幸  
Kazuyuki Kiryu

美作大学  
Mimasaka University

**要旨:** 本稿は特集補遺「アスペクト」「モダリティ」についてデータをまとめたものである。

**Abstract:** This report is a collection of exemplary sentences with respect to the grammatical categories of aspect and modality in Kathmandu Newar.

**キーワード:** テンス, アスペクト, モダリティ, 使役

**Keywords:** tense, aspect, modality, causative

### 1. はじめに

本稿は、風間(2020)に即して、ネパールの首都カトマンズ盆地で話されているカトマンズ・ネパール語のデータを提供するものである。

カトマンズ・ネパール語は、正式には Nepal Bhasa (नेपालभाषा) と言い、日常的には newa: bhæ: (नेवा: भाय्) と呼ばれる。日本語では一般的に「ネパール語」と呼ばれている言語で、カトマンズ盆地のカトマンズ市・パタン市を中心に話されているチベット=ビルマ系の言語である。

本稿で用いるネパール語の表記は、Hale and Shrestha (2006)の表記法に従う。この表記法は、ネパール語を書くのに用いられるデーヴァナーガリー文字の転写に厳密に従うのではなく、ある程度実際の発音を反映させ、特に母音については、2つの母音が融合して発音されるものについては書記上別々の母音であるものでも1つの音素表記とするものである。

ネパール語の母音は、短母音として/a, a, i, u, e [e]/, 長母音としてこれら5つの短母音の長音、および、短母音としては現れないが/æ/, /ɛ/の長音がある。/æ:/と/ɛ:/は、/a/と/ye/, /a/と/ye/が形態的に連続するときに融合して長母音/æ:/, /ɛ:/として現れる。/o/ という音素については、/wə/との間で揺れがあり、書記上使われるデーヴァナーガリー文字では、/o/を表す文字ではなく、/wə/を表す文字が使われるのがふつうである。また、母音は、長短の対立だけでなく、それに加えて鼻音化したものも音素的対立を形成する。

子音は、有声・無声の対立に加え、有気・無気の対立がある子音 /k, kh, g, gh, t, th, d, dh, n, nh, p, ph, b, bh, m, mh, l, lh, r, rh/がある。なお、有声有気音は、実際には無声無気音で後続する母音がつぶやき音化する。例えば, bhə は [bʰə] ではなく、[pə] という発音になる。そのほか、摩擦音 /s [s~ʃ], h/, 破擦音 /c [ts], ch [tʃ], j [dʒ], jh [tʃ~ʃ], 接近音 /y [j], w/ がある。口蓋化子音は ny のように y を用いて表記する。表記上 y が入る文字の実際の発音は, yə の場合, 原則/ye [e]/と発音されるが, 母音が長音の yə: や鼻母音の yə̃ の時は /yə [jə]/と発音される。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

ネワール語の形態統語的な特徴の概要を述べる。ネワール語の基本語順は、SV, AOV, GN, AN, RelN で主要部後置型の配列となる。また、ネワール語の名詞の格標示体系は、能格型の A≠S=O であるが、統語的な能格性と言うよりも意味的な能格性の側面が強い。自動詞の主語は、形態的に無標であるのに対して、他動詞の主語は、能格形で現れる。能格形は、長鼻母音が特徴で、語末の母音が長鼻母音となるか、=ā:, =nā:, =sā: などが付く。なお、能格形は、具格形（道具・手段）・奪格（起点）と同形である。他動詞の目的語は、無生物であれば自動詞主語と同じ無標だが、生物の場合は、=(ya)tə という与格表示となる。=ya 自体は属格で、そのあとに名詞化辞=gu/=mhə を取ることもある。その他、=ε:/=le（所格：無生物）、=ke（所格：有生物）がある。なお、名詞の文法範疇としては、生物名詞の場合、単数・複数の区別がみられるが、無生物は基本区別しない。また、数量類別詞が豊富に存在する。

動詞は述部を形成するが、テンス・アスペクト・モダリティ、そして、Conjunct/Disjunct（順接・離接）という人称による屈折語尾を取り、定動詞として表れる。Conjunct form（順接形）は、動詞の表す事態が主語により意志的にコントロールされ得るものであり、かつ、平叙文で主語が1人称、または、疑問文で2人称のとき現れる形で、それ以外は Disjunct form（離接形）が現れる。また、Disjunct form には、アスペクト的に perfective/imperfective の対立が反映される。

ネワール語の動詞は、活用に対する語幹の種類が5つある（Hale 1976, Hale and Shrestha 2006）。第1類は、wən-e「行く」のように/n/で終わるもの。第2類は、ya-ye「する」のように不定形は語幹が母音で終わるが、非未来順接形のとき yan-, 非未来離接形の時 yat-と語幹末に n/t の子音が現れるもの。第3類は、bi-ye「与える」のように不定形は語幹が母音で終わるが、非未来順接形の時に biy-, 非未来離接形の時に bil-と語幹末に y/l の子音が現れるもの。第4類は、cal-e「開く」のように語幹が/l/で終わるもの、第5類は、mhit-e「遊ぶ」のように語幹が/t/で終わるものである。これら語幹には以下の表1のような屈折語尾が付く。

ネワール語のテンスの分類は、過去・非過去という対立とするか、未来・非未来とするかで見解が分かれるが、本稿では未来・非未来の対立を採用する。このテンス対立の基盤は、irrealis/realis の対立があると考えられる。動詞が取る屈折語尾は以下のようなものである。

表1：ネワール語の動詞の屈折語尾

	Conjunct	Disjunct
Future/Irrealis	-e/-i	-i/-i:
Non-future/Realis	-a	-ə/-ələ (perfective/non-stative)
		V: (imperfective/stative)

離接形には、-ə/-ələ の語尾を取る形と語幹の子音が脱落し母音が長音化する形の2つの形式がある。両者はアスペクト的な違いがあり、perfective/imperfective 的な対立か静的・非静的事態の対立をしめす。また、アスペクトにかかわらず、名詞化された場合は、imperfective の形しか現れない。なので、この形を「非未来中立離接形 (Non-Future Neutral Disjunct form)」と呼び、もう一つを「非未来離接形 (Non-Future Disjunct)」と呼ぶことにする。先行する文献では、非未来中立離接形は、状態を表すことから stative form と呼ばれることもある。以下表2に動作動詞 ya-ye「する」と変化動詞 bhin-e「よくなる」の両方の動詞が取る形を示す。

表2：ネワール語 yaye と bhine の変化形

不定形 (INF)	ya-ye (=yæ:) 「する」	bhin-e 「よくなる」
未来順接形 (FC)	ya-e (=yæ:)	bhin-e
未来離接形 (FD)	ya-i	bhin-i:
非未来順接形 (NFC)	yan-a	bhin-a
非未来離接形 (NFD)	yat-ə	bhin-ə
非未来中立離接形 (NFND)	ya:	bhī:

Aspectに関係する表現は、ネワール語では日本語同様動詞から派生した補助動詞を用いた動詞連続構文で表す。例えば、動作継続を表すには、「いる」という意味の *cwən-e* という動詞を用い、前項動詞は日本語のテ形のような連鎖形 (concatenation form) または不定形で補助動詞に接続する。

ネワール語のModality表現も日本語に劣らず豊富である。主なパターンは、「不定形+補助動詞」、「不定形+名詞+動詞」等がある。

本稿は、パタン市出身の女性話者にアンケート調査を行った結果に基づき、これまでの著者のデータとも合わせながらまとめたものである。本稿で使用するグロスは、Leipzig Glossing Rulesに従うが、そこにはないものとして、表2中に挙げた略号、および、CM:連鎖辞 (concatenation marker), CONT:継続相 (continuous aspect), CP:動詞連続分詞 (conjunctive participle), EMPH:強調 (emphatic), HON:敬体 (honorific), IMPRF:未完了 (imperfect), INTJ:間投詞 (interjection), PLN:地名 (place name) PSN:人名 (personal name), SFP:文末助詞 (sentence final particle) を用いることとする。

## 2. Aspect

- (1) शाम न्हचः हे वय् धुंकल।

Sham nhəçə: he wɛ: dhũ:-kələ.

PSN already EMPH come.INF PRF-NFD

シャムはもう来た。

- (2) वय्कः न्हचः हे वयाचवने धुंकल।

wɛ:kə: nhəçə: he wəy-a cwən-e dhũ:-kələ.

3SG.HON already EMPH come=CM CONT-INF PRF-NFD

あの人はもう来ている。

- (3) शाम भाजु मवःनि।

Sham bhaju mə-wə:-ni.

PSN HON NEG-come.NFND-IMPRF

シャムさんはまだ来こない・来ていない。

- (4) शाम भाजु अय्न् हे मवःनि।

Sham bhaju ɛ:nə: he mə-wə:-ni.

PSN HON yet EMPH NEG-come.NFND-IMPRF

シャムさんはまだ来ない。

完了・未完了は、それぞれ *dhun-e* という補助動詞、非未来中立離接形の否定形に未完了を表す *-ni* を

つけて表す。(2)の「来ている」という結果状態は, wəy-a cwən-e の部分が表しており, dhū:-kələ が「来てここにいる」という事態が成立したという意味を強めている。

(5) शाम भाजु पलखं वइ(गु जुल)।

Sham bhaju pəlkħə: wə-i(=gu jul-ə).  
 PSN HON soon come-FD=NMLZ become -NFD  
 シヤムはもうすぐ来る。

普通に未来形だけで表すこともできるが, カッコ内に追加したように文を名詞化し「なる」という動詞を加えて表すこともできる。この場合は, そういう事態が確定した, というようなニュアンスになる。

(6) का, शाम भाजु वल!

ka, Sham bhaju wəl-ə.  
 INTJ PSN HON come-NFD  
 あ!シヤムさんが来た。

非未来形は realis の意味となるので, 発見的な意味でも使うことができる。ネワール語では, 非未来形は, 現在・過去の区別がないため, 存在の「ある・あった」は də-ye の非未来中立離接形 du で表されるが, 発見の時には dət-ə のように非未来離接形で表される。なので, 「お金がある・あった」は dyəba du [money exist.NFND] となるが, 発見の「お金があった!」は, dyəba dət-ə [money exist-NFD] となる。なお, この文は, 「お金ができた。」という意味でも使うことができる。

(7) म्हिगः शाम भाजु जिगु छैय् वल/वःगु।

mhigə: Sham bhaju ji=gu chē: wəl-ə/wə:=gu.  
 yesterday PSN HON 1SG=NMLZ house.LOC come-NFD/come.NFND=NMLZ  
 昨日シヤムが私の家に来たよ。

単純に非未来離接形を使うこともできるが, 非未来中立離接形+名詞化辞で表すこともできる。後者は, 実際にそのことが起こったということを強調した表現となる。

(8) a. म्हिगः शाम भाजु जिगु छैय् मवः।

mhigə: Sham bhaju ji=gu chē: mə-wə:.  
 yesterday PSN HON 1SG=NMLZ house.LOC NEG-come-NFND  
 昨日シヤムは私の家に来なかったよ。

b. म्हिगः शाम जिगु छैय् मवल का।

mhigə: Sham ji=gu chē: mə-wəl-ə ka.  
 yesterday PSN 1SG=NMLZ house.LOC NEG-come-NFD SFP  
 昨日シヤムは私の家に来なかったよ。

(8a)と(8b)の違いは, 動詞が非未来中立離接形の否定なのか非未来離接形の否定なのかであるが, 前提条件なく, 来たかどうかに対する答えとしては(8a)を用いる。しかし, 来ることが期待されていたが結局来なかったというような場合は, (8b)を用いる (Kiryu 2001, 桐生 2004 参照)。

(9) जि व स्याउ न्हचः हे नया।

jī: wə syau nhəçə: he nəy-a.  
1SG.ERG that apple already EMPH eat -NFC  
私はそのリンゴをもう食べた。

ここでは、(1)と違い完了の補助動詞 dhun-e がなく、単なる過去を表す形になっているが、ne: dhun-ə [eat.INF PRF-NFC]とすることもできる。こちらの方が完了の意味が強まる。

(10) जि व स्याउ मनयानि।

jī: wə syau mə-nəy-a-ni.  
1SG.ERG that apple NEG-eat-NFC-IMPRF  
私はまだそのリンゴを食べていない。

「まだない」という未完了の意味では、非未来形の否定に「まだ (ない)」という意味の-ni を最後に付ける。主語が1人称でなければ、非未来中立離接形の否定に -ni をつける。

(11) a. व मनूनं व स्याउ नयाच्वन।

wə mənũ:nə: wə syau nəy-a cwən-ə.  
that man=ERG that apple eat-CM CONT-NFD  
あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べています。

b. व मनूनं व स्याउ नयाच्वंगु दु।

wə mənũ:nə: wə syau nəy-a cwə:ngũ du.  
that man=ERG that apple eat-CM CONT-NFND=NMLZ exist.NFND  
あの人は今 (ちょうど) そのリンゴを食べているところです。

(11a)は、テンス的には非未来なので、「食べている・食べていた」どちらの解釈も可能である。それに対して(11b)は、名詞化構文を用いており、より発話時の状態への焦点化が行われている。動作継続に使う補助動詞は、cwən-e で「いる」という存在動詞である。動作継続の場合、自動詞他動詞に関係なく使うことができる。

(12) a. झ्या चाः।

jhya: ca:.  
window open.NFND  
窓が開いている・開いていた

b. झ्या चालाच्वन।

jhya: cal-a cwən-ə.  
window open-CM CONT-NFD  
窓が開いている・開いていた

ネワール語では、結果の状態か否かにかかわらず、限界動詞が表す状態は、(12a)のように動詞の非未来中立形で表される。また、(12b)のように動作の継続に使われる補助動詞を用いて結果状態を表すこともできるが、発見の意味合いが強い。

- (13) a. जि न्हीन्ही पत्रिका ब्वना/ब्वनेगु।  
 jī:        nhi:nhi:    pət̪rika    bwən-a/bwən-e=gu.  
 1SG.ERG every.day newspaper read-NFC/read-FC=NMLZ  
 私は毎日新聞を読む。
- b. वं न्हीन्ही पत्रिका व्व/वनी।  
 wā:        nhi:nhi:    pət̪rika    bwā:/bwən-i:.  
 1SG.ERG every.day newspaper read-NFND/read-FD  
 彼は毎日新聞を読む。

ネワール語で習慣を表す場合、動詞が取る形が人称によって異なる。1 人称主語の場合、非未来順接形または未来順接形+名詞化辞のパターンで表すことができる。両者の違いは習慣とする行為の頻度の違いが関係し、高頻度の習慣行動には、未来順接形+名詞化辞のパターンが好まれ、そうでない場合は非未来順接形が好まれる。また、非 1 人称主語の場合、非未来中立離接形または未来離接形が用いられるが、こちらも頻度の差が関係し、未来形を用いる方が頻度が高い。

- (14) a. छि छिमि मां स्वः।  
 chi    chi-mi    mā:    swə:.  
 2SG 2SG-GEN mother look.NFND  
 あなたはあなたのお母さんに似ている。
- b. जिमि किजा ब्याः याय् धुंकल।  
 ji-mi        kija        bya:        yæ:        dhũ:-kələ.  
 1SG-GEN brother marriage do-INF PRF-NFD  
 私の弟は（もう）結婚している。

日本語のテイル形で表される状態は、「似ている」のような性質としての単なる状態、「結婚している」のような結果状態があるが、ネワール語では、(14a)のような単なる状態は非未来中立離接形で表される。また、結果状態は、発見の文脈であれば(12b)のように継続相の補助動詞 *cwən-e* を使う。しかし、「結婚している」の場合は、継続相の補助動詞は使わず、完了の意味を表す *dhun-e* を用いる。

- (15) a. जि अबले न्हीन्ही इस्कूलय् वना।  
 jī    əbəle    nhi:nhi:    isku:l=ɛ:        wən-a.  
 1SG then every.day school=LOC go-NFC  
 私はその頃毎日学校に通っていた。
- b. जि अबले न्हीन्ही इस्कूलय् वनाच्वना।  
 jī    əbəle    nhi:nhi:    isku:l=ɛ:        wən-a    cwən-a.  
 1SG then every.day school=LOC go-CM CONT-NFC  
 私はその頃毎日学校に通っていた。

過去の習慣を表す場合、1 人称主語では(15a)のように非未来順接形を使うことができる。あるいは、継続相の補助動詞を付けて反復的な意味を出した(15b)のような表現も可能である。

- (16) a. जि पोखराय् वने धुन।  
 jī    Pɔkhəra=e    wən-e    dhun-ə.  
 1SG PLN=LOC go-INF PRF-NFC  
 私はポカラに行ったことがある。

b. जि पोखराय वने नं।

ji Pokhara=e wən-e n̄:  
1SG PLN=LOC go-INF get.to.NFND

私はポカラに行ったことがある。

ネパール語で経験を表す場合、日本語のテイルと違い継続形は使えない。(16a)のように完了を表す補助動詞 dhun-e を使うか、(16b)のように「～する機会を持つ」という意味の補助動詞 n̄-ye の非未来中立離接形で表す。

(17) बल्ल बस चल्य जुल।

ballə bās cāl̄: jul-ə.  
finally bus movement happen-NFD

やっとバスが走り出した。

始動相「～し始める」は、「動詞+gu suru ju-ye/ya-ye」[V=NMLZ beginning become/do]というパターンが可能である。しかし、(17)の場合は、動詞の非未来形で、始動の意味を包摂しているので、複合形式は使用しない。基本的に非未来形は、事態の変化を示唆するため、肯定形では開始を、逆に、その否定形は事態の停止を表す。なので、cāl̄: m̄-jul-ə [movement NEG-happen-NFD] は、「動かなくなった」という事態変化を表し、「動かなかった」という命題の否定は、cāl̄: m̄-ju:[movement NEG-happen.NFND] と非未来中立離接形の否定になる(桐生(2004)を参照)。

(18) म्हिगः शाम भाजु न्हिच्छिं देना च्वन।

mhigə: Sham bhaju nhicchi: dena cwən-ə.  
yesterday PSN HON whole.day sleep CONT-NFD

昨日シャムさんは一日中寝ていた。

長時間の継続の場合でも、同じ継続相の補助動詞 cwən-e を使うことができる。

(19) जि व भतिचा नया स्वया।

ji: wə bhatica n̄y-a sw̄y-a.  
1SG.ERG that a.little eat-CM look-NFC

私はそれをちょっと食べてみた。

試行的な意味を表すには、「見る」という意味の動詞を補助動詞として使う。

(20) व मनूनं फलफल सकसित इनाबिल।

wə m̄nu:n̄: phəlphul səkə=sitə in-a bil-ə.  
that man=ERG fruit everyone=DAT distribute-CM give-NFD

あの人は果物を分けて与えた。

ネパール語では、目的語の多回性はアスペクトの表現に影響しない。

(21) a. का, (जिपि) वनाछव्य ।

ka, jipi: wən-a chwe:.  
okay 1PL go-CM send-FC

さあ、(私たち)は行くよ!

b. जि वल।

ji wəl-ə.

1SG come-NFD

今行くよ。(直：私は来た。)

基本, (21a) のようなその場で決めた未来の動作の場合は, 過去を包摂する非未来形は使わないが, 呼ばれたときに(21b)のように返事することが可能である。このパターンは, 決意というより相手の要求に応じるという文脈である。

(22) पृथ्वीनं सूर्यं तःचाः हिलाचवन।

prithbi:=nāḥ surye: t̄a:-ca: hil-a cwən-ə.

earth=ERG sun.LOC big-round turn-CM CONT-NFD

地球は太陽の周りをまわっている。

「人は死ぬ。」のような恒常の真理を表す場合, m̄ənu: si: [man die.FD] のようにその事態が出来事的な場合は, 未来離接形を使うが, (22)のように継続的な状態は, 継続相の補助動詞 cwən-e で表す。

(23) a. हूँ सिमा थथे हे ग्वःतुली थें च्वं।

hū sima thathē: he gwə:tuli: thē: cwā:.

that tree right.now EMPH fall.down-FD like stay.NFND

あの木は今にも倒れそうだ。

b. हूँ सिमा थथे हे ग्वःतुलीन।

hū sima thathē: he gwə:tuli:-nə.

that tree right.now EMPH fall.down-FD-about.to

あの木は今にも倒れてしまいそうだ。

コンサルタントからは, (23a)のような例が出たが, この文は, 将然相というよりはエビデンシャルな意味で「そう見える」, ということ。倒れる可能性が高い場合は, (23b)を用いるが, -nəの方がすでに倒れかけていて, 倒れる直前を指す。

(24) जि झन्डेले दय् त्यंगु।

ji jhāndeḷe dā: tyā:=gu.

1SG almost fall.down.INF be.about.NFND=NMLZ

私は危うく転ぶところだった。

未実現事態は, tyən-e という補助動詞を用いる。前項動詞は不定形になる。また, 主語は1人称だが, 転ぶという事態が自分が意図的に行うことではないので, 動詞は離接形を取る。

(25) कन्हय् पाहां वय् त्यंगुलिं जि मरि न्याना हया तय्।

kānhē: pahā we: tyā:=gulī: jī: m̄əri nyan-a hāy-a

tomorrow guest come-INF be.going.to.NFND=because 1SG.ERG pastry buy-CM bring-CM

tē:.

put.FC

明日客が来るので, パンを買って来ておく。

準備を表すには, 「置く」という意味の動詞を補助動詞として用いる。この形式は, 他動詞の結果残存



も表すので、日本語の「である」構文や「されている」という受動態の意味に対応する場合に使うことができる。ちなみに、日本語では「買ってくる」だが、ネパール語では他動性一致の原則が働き、「買って持ってくる」となる。

(26) जि असनय् वनावलय् थ्व म्हिचा न्याना।

ji əsən=ɛ: wən-a=bəɛ: thwə mhica nyan-a.  
1SG PLN=LOC go-NFC=when this bag buy-NFC  
私はアサンに行ったとき、この袋を買った。

(27) जि असनय् वनेन्हयः थ्व म्हिचा न्याना।

ji əsən=ɛ: wən-e=nhyə: thwə mhica nyan-a.  
1SG PLN=LOC go-FC=before this bag buy-NFC  
私はアサンに行く前に、この袋を買った。

ネパール語の定動詞の持つ時制は、相対テンスとして機能することはない。(26)では、主節の動詞が非未来形でここでは過去の事態を表していることから、「行くとき」という意味で wən-e=bəɛ: [go-FC=when] のような未来形の表現を使うと、文法的におかしくなる。なので、「行くとき」は(27)のように「行く前に」と明示的に表現するしかない。逆に主節が未来形であれば、bəɛ:節に非未来形を取ることはいできない。

(28) वं बजरय् थ्व म्हिचा न्याना हःगु धयाः जि स्यू।

wə: bəjər=ɛ: thwə mhica nyan-a hə:=gu dhəya: jī:  
3SG.ERG market=LOC this bag buy-CM bring.NFND=NMLZ QUOT 1SG.ERG  
syu:  
know.NFND  
彼が市場でこの袋を買ったことを私は知っていた。

### 3. モダリティ

(1) ज्या सिधलकि छैय् लिहां वंसां ज्यू।

jya sidhəl-ə=ki chē: lihā: wə:=sā: jyu:  
work finish-NFD=when house.LOC back go.NFND=though be.okay.NFND  
仕事が終わったら、帰ってもいいですよ。

「許可」の意味は、日本語と似ていて、譲歩節をとり、「かまわない」という意味の動詞 ji-ye を使う。

(2) a. ध्वगि धुकूगुलिं व नय् मजिल।

dhwəgi dhū:-ku:=gulī: wə ne: mə-jil-ə.  
rotten PRF-NFND=because that eat.INF NEG-be.okay-NFD  
腐っているから、それを食べてはいけない。

b. ध्वगि धुकूगुलिं व नय् मते।

dhwəgi dhū:-ku:=gulī: wə ne: məte.  
rotten PRF-NFND=because that eat.INF PROH  
腐っているから、それを食べるな。

直接的な禁止は、məte で表される（語源的には te-ye 「問題がない」という意味の動詞の否定命令形だ

が、現代語では禁止のマーカ―としてのみ機能する)。また、(2a)のように、「かまわない」という意味の動詞 *ji-ye* の否定形を使って表すこともできる。ちなみに、(1)でも *ji-ye* を使っているが、形としては状態を表す非未来中立離接形であるのに対し、(2a)は、事態変化を表す *jil-ə* の否定形になっている。これは、もともと食べても構わない状態から、食べてはいけないという否定的状況に変化したということを反映している（否定的状況の成立を表す表現の詳細は、桐生(2004)を参照されたし）。

- (3) a. लिवाय् धुकूगुलि जिपि आः लिहां मवसे मजिल।  
 libe: dhū:-ku:=gulī: jipī: a: lihā: mə-wā:-se mə-jil-ə.  
 be.late.INF PRF-NFND=because 1SG now back NEG-go-ADV NEG-be.okay-NFD  
 遅くなったので、私たちはもう帰らなければならない。  
 b. थौं जि यैय् वने मानि।  
 thāū: ji yē: wən-e ma-ni.  
 today 1SG PLN.LOC go-INF need.NFND-IMPRF  
 今日はこれからカトマンズに行かなければならない。

「義務」的な意味は、状況的にそうしなければならない、という場合は、「かまわない」という意味の動詞 *ji-ye* を用いた表現を使用し、日本語の「なければならない」と同じ図式の表現になっている。また、必要性を表す *mal-e* という補助動詞を使い(3b)のような表現も可能だが、こちらは、そうする必要性がある、というニュアンスの義務。

- (4) वा वइगु धाल है। कुसा जोना वंसा ज्यू का।  
 wa wə-i=gu dhal-ə hǎ. kusa jwən-a wā:=sa jyū: ka.  
 rain come-FD=NMLZ say-NFD HS umbrella hold-CM go.NFND=if be.okay.NFND SFP  
 雨が降るそうだよ。君は傘を持って行った方が良い。

推奨の意味を表す場合、「持っていけば問題ない」という条件文と動詞を組み合わせた表現になっている。文末の *ka* は、日本語の「よ」に近い文末助詞。

- (5) बुराबुरि जुलकि मस्तयसं धाःगु खँ न्यने माः।  
 bura-buri jul-ə=ki maste:=sā: dha:=gu khǎ nyen-e  
 old.man-old.woman become-NFD=when children=ERG say-NFND=NMLZ words listen-INF  
 ma:.  
 need.NFND  
 歳をとったら、子どもの言うことを聞くべきだ・聞くものだ。  
 評価的義務を表すには、「必要だ」という意味の補助動詞 *mal-e* を用いる。

- (6) नय् मास्ति वःगुलिं जितः न्ह्यागुसां नय् माल।  
 ne: masti wə:=gulī: ji=tə: nhya=gu=sā: ne: mal-ə.  
 eat.INF desire come.NFND=because 1SG=DAT any=NMLZ=even.if eat.INF need-NFD  
 お腹がすいたので、何か食べたい。

「～したい」は、「必要だ」という意味の補助動詞 *mal-e* を使うことができる。ちなみに、「お腹がすいた」の部分 *ne: masti wə:* も、*masti wə:* のところだけで「～したい」という意味にもなる。

(7) जि ज्वना बिइ।

jī: jwən-a bi:  
1SG.ERG hold-CM give.FC

私が持ちましょう。

自分がやるという意味の表明には、未来順接形を用いる。ちなみに、この未来順接形の文に *la* をつけ諾否疑問文にすると、「持ちましょうか。」という提案になるが、「持ってあげてもいいですか。」という許可を求める表現としても解釈が可能である。

(8) का, नापं न्हिनयसिया जा नय नु।

ka nap̄: nhine:=siya ja nɛ: nu.  
okay together daytime=GEN cooked.rice eat.INF HOR

じゃあ、一緒に昼ご飯を食べましょう。

(9) नापं न्हिनयसिया जा नयगु मखु ला?

nap̄: nhine:=siya ja nɛ:=gu mə-khu la?  
together daytime=GEN cooked.rice eat.FC=NMLZ NEG-COP.NFND Q

一緒にお昼ご飯食べませんか。

相手に誘いかける表現は、(8)のように未来順接形に *nu* を付けるか、(9)のように動詞を名詞化し後ろに否定のコピュラと疑問マーカを付けることで相手の意向を確認しながら誘う表現になる。コピュラの否定形+疑問マーカは、いわゆる付加疑問文のような機能を果たす。ここでは、未来形動詞が名詞化されていることで、話者は「食べること」を確実なものとして見なし、そうだね?と確認することで勧める表現となっている。

(10) a. कन्हय् घ: बांला:सा ज्यू का।

kənhɛ: dyə: bā:la:=sa jyu: ka.  
tomorrow god be.beautiful.NFND=if be.okay.NFND SFP

明日、良い天気になればいいなあ。

b. कन्हय् निभा: त्वय् मा।

kənhɛ: nibha: twe: ma.  
tomorrow sun shine.INF need.INF

明日天気になれ。

希望を述べる場合は、(10a)のような条件文+「構わない」という意味の補助動詞 *jiye* という複合形式で表すことができる。ちなみに、この表現を相手の行為に用いると、「～してほしい」という依頼文になる。また、祈願の形式として、「必要だ」という意味の *mal-e* の命令形を用いる(10b)のような形式もある。

(11) जि थन पियाचवने। याकनं व कया वा।

jī thənə piy-a cwən-e. yakən̄: wə kəy-a wa.  
1SG here wait-CM CONT-FC quickly that take-CM come.IMP

私はここで待ってるね。すぐにそれを持ってきて。

命令は、動詞の命令形を用いる。命令形は、基本的に動詞の語幹と同じになるが、変則的なものとして *wən-e* 「行く」が *hū*, *wə-ye* 「来る」が *wa*, *tə-ye* 「置く」が *ti* となるものがある。

(12) आम कलम छकः पलख काय जिइ ला थें?

am kələm chə-kə: pəlkhə kə: ji: la thē:?  
that pen one-time a.while take.INF be.okay.FD Q like

そのペンをちょっと貸していただけませんか。

丁寧に頼む場合、最後に「～ようだ」という様子を表す副詞を付ける。これがなくても許可を求める文として機能する。

(13) व मनु चाइनीज भाय् ब्वने सः/फु।

wə mənʉ: caini:j bhæ: bwən-e sə:/phu.  
that man China language read-INF be.able.NFND/can.NFND

あの人は中国語が読めます・読むことができます。

ネパール語では、能力可能を表すのが sa-ye, 状況可能や可能性を表すのが pha-ye (非未来離接形は, pha:ではなく phu になる。)と別れている。また、他動詞でも主語は能格形にならない。

(14) a. मत बुलुगुलिं थन छु च्वयातःगु खः ब्वने मफु।

mətə bulu=gulī: thənə chu cwəy-a tə:=gu khə:  
light be.dark.NFND=because here what write-CM put.NFND=NMLZ COP.NFND  
bwən-e mə-phu.  
read-INF NEG-can.NFND

明かりが暗くて、ここに何が書いてあるのか、読めない。

b. .... सिइके मदु।

si:-k-e mə-du.  
know-CAUS-INF NEG-have.chance.NFND

判別できない。

(14a)のように、状況可能を表す phu を用いることができる。しかし、判読できない、という意味で bwən-e mə-phu の代わりに、(14b)のような表現も可能である。da-ye はここでは「する機会がある」という意味の補助動詞。

(15) सुथय् न्ह्यापां पिहां वंगुलिं इपिं न्हचः हे थ्यन जुइमाः।

suthe: nhyepā: pihā: wə:=gulī: ipī: nhacə: he thyen-ə ju-i  
morning early out go.NFND=because 3PL already EMPH arrive-NFD become-INF  
ma:  
should.NFND

朝早く出発したから彼らはもう着いているはずだ。

ju-i という動詞と必然性を表す補助動詞 mal-e を組み合わせて表現する。

(16) वय्कः कन्हय् शायद वइमखु जुइ।

wə:kə: kənhə: saed wə-i-məkhū ju-i.  
3SG.HON tomorrow probably come-FD-NEG become-FD

あの人は、明日来ないだろう。

「だろう」という推量は、定動詞文の後に ju-i 「なる」という動詞の未来離接形を付ける。

- (17) इपि आःतक मवःनि धयागु हे पक्का हे लै बिचय् गारि स्यंगु ला मखु ला?  
 ipī: a:-təkə mə-wə:-ni dhəy-a=gu he pəkka he lā  
 3PL now-till NEG-come.NFND-IMPRF say-NFC=NMLZ EMPH surely EMPH road  
 bice: gari syā:=gu la mə-khu la?  
 in.middle car break.down.NFND=NMLZ Q NEG-COP.NFND Q  
 彼らはまだ来ないなんて、きっと途中で車が壊れたんじゃないか。  
 疑念を表す場合、文を名詞化し、その後ろに「ではないか」という意味のコピュラ+疑問詞を置くパターンをとる。ちなみに、このパターンは、(9)の誘いかけと同じ形式で、本来は疑念を表す形式が、間主観的な機能まで拡張したと考えられる。
- (18) (न्हिन्हय् जुयाः वय्कः छैय्) ग्व, दय् नं फु मदय् नं फु।  
 (nhinhe: juy-a: wɛ:kə: chē:) gwə, dɛ: nō: phu  
 daytime.LOC become-CP 3SG.HON house.LOC INTJ exist.INF too can.NFND  
 mə-dɛ: nō: phu.  
 NEG-exit.INF too can.NFND  
 (昼間だからあの人は家に) さあ、いるかもしれないし、いないかもしれない。  
 「かもしれない」という可能性を表すには、状況可能を表す補助動詞 pha-ye の非未来中立離接形を用いる。
- (19) (कापाः तिया स्वयाबलय्) न्हयि हे धाःसां आकनयाके ज्वर दु थें च्वं।  
 (kapa: tiy-a swəy-a=bələ:) nhyethi he dha:=sā: akənə=yake  
 touch-CM look-NFC=when anyway EMPH say.NFND=though 2SG.HON=LOC  
 jwər du thē: cwā:.  
 fever exist.NFND like stay.NFND  
 (額に触ってみて) どうもあなたは熱があるようだ。  
 ネワール語では、「ようだ」に当たる表現が thē: cwā: で、視覚・聴覚・触覚・感覚等、実際に話者が自分の感覚情報で推察する場合に使われ、特に感覚内での差異はない。
- (20) (मौसमया खबर अनुसारं) कन्हय् वा वय् फु है।  
 (məusam=ya khəbər ənusatō:) kənhe: wa wɛ: phu hā:.  
 weather=GEN story according.to tomorrow rain come-INF can.NFND HS  
 (天気予報によれば) 明日は雨が降るそうだ。  
 ネワール語では、伝聞であることを表す文末助詞 hā: がある。
- (21) छुं जुयाः जिके ध्यबा दत धाःसा हुँ गारि न्यायगु धयां।  
 chū: juy-a: ji=ke dhyeba dət-ə dha:sa hū gari nyæ:=gu  
 something happen-CP 1SG=LOC money exist-NFND if that car buy.INF=NMLZ  
 dhəy-ā:.  
 say-NFC.EMPH  
 もしお金があったら、その車を買うのに。  
 条件を表す接続詞 dha:sa が取る節の主動詞は必ず非未来中立離接形になる。また、「～のに」は、主

節を名詞化しそれに「言う」という動詞をつけて表す。

(22) छुं जुया: आकनं मधा:गु जूसा, जि अन ध्यनीमखु जुइ।

chũ: juy-a: akənə: mə-dha:=gu ju:=sa ji ənə  
 something happen-CP 2SG.HON.ERG NEG-say.NFND=NMLZ become.NFND=if 1SG there  
 thyen-i:-məkhu ju-i.  
 arrive-FD-NEG become-FD

もしあなたが教えてくれていなかったら、私はそこにたどり着けなかったでしょう。

ネワール語での反実仮想は、前件を表す条件節では、動詞は通常通りのテンス形式をとるが、帰結を表す主節では、(22)のように過去の事態に対する反実仮想であっても未来形を用いる。第2節の相対テンスの例のところでも述べたとおり、ネワール語は、相対テンスはなく絶対テンスとなるが、反実仮想の時は主節が未来形となり、これは未来形がもともと *irrealis* のムードを表す形式であることを示していると言える。

(23) वय्कः सहरय् वने मास्ति वय्का च्वन।

wɛ:kə: səhər=e: wən-e masti wɛ:-k-a cwən-ə.  
 3SG.HON city=LOC go-INF desire come-CAUS-CM CONT-NFD

あの人は、町へ行きたがっている。

ネワール語は、面白いことに日本語同様、感情感覚の表現の場合、1人称主体とそれ以外とで区別が見られる。日本語で「ほしい」という形容詞を「ほしがる」と動詞化し、他動性が高くなるが、ネワール語では、「～したい」*masti wə-ye* [desire come-INF] という形式の自動詞を使役化し他動性を上げることで3人称の状況を表現する。日本語と形式は異なるが、1人称主体の感情感覚を表す表現より3人称主体の感情感覚を表す表現の方が他動性が高くなるという点で共通している。詳細は (Kiryu 2001, 桐生 2002 を参照)。

(24) जितः नं आम भच्चा त्वकि।

ji=tə: nə: am bhacca twə:-k-i.  
 1SG=DAT too that a.little drink-CAUS-IMP

僕にもそれを少し飲ませろ。

1人称に対する命令は、使役形の命令形となり、日本語と基本的には同じ表現パターンとなる。

(25) a. थ्व वय्कःयात ज्वंका छव।

thwə wɛ:kə:=yatə jwə:-k-a chwə.  
 this 3SG.HON=DAT hold-CAUS-CM send.IMP

これはあの人に持って行かせろ。

b. थ्व वय्कःयात ज्वंका छवय् नु।

thwə wɛ:kə:=yatə jwə:-k-a chwɛ: nu.  
 this 3SG.HON=DAT hold-CAUS-CM send.FC HORT

これはあの人に持って行かせよう。

3人称に対する命令は、直接的なものであれば使役の命令形となる。例えば、「させろ」であれば、*ya-k-i* [do-CAUS-IMP] となる。上の例では「持って行く」という複合動詞の3人称命令となるが、ネワール語では直訳すると「持たせて行かせろ」となる。「持って行く」はネワール語では *jwən-a wən-e* [hold-CM

go-INF] となるが、日本語と異なり、両方の動詞に他動性一致の原則が働き、どちらも使役形になる。

(26) व तेबुल्य् च्वय् च्वंगु मरि अले न।

wə tebul=ɛ: cwe: cwã:=gu məri əle nə.  
that table=LOC top.LOC stay.NFND=NMLZ sweet later eat.IMP  
そのテーブルの上にあるお菓子は後で食べる。

命令形に時間的な区別はネパール語では見らず、今でも後でも同じ nə「食べる」という命令形になる。

(27) अझ याकनं वय् मा:गु।

əjhə yakənã: wɛ: ma:=gu.  
more soon come.INF need.NFND=NMLZ  
もっと早くに来るべきだったのに。

後悔的な反実仮想を表す表現は、「～する必要があった。」という表現になる。必要という補助動詞は未来形にはならない。この文の場合、主動詞が ma:=gu となっているように、必要があったことは現実だから。その前の「来る」という動詞は不定形なので、この表現の場合、irrealis という特徴は反実仮想でも現れない。

(28) आकन नं नापं वंसा (मज्यू ला?)

akənə nã: napã: wã:=sa (mə-jyu: la)?  
2SG.HON too together go.NFND=if NEG-be.okay.NFND Q  
あなたも一緒に行ったら (どうですか) ?

ネパール語でも日本語同様条件を表す=sa の文は、後件を言わずに語用論的に促しの機能を示唆することが可能であるが、言い差しの用法であり、日本語ほど脱従属化は進んでいない。

(29) जि अजा:गु खँ सइ ला?

jī: əja:=gu khã si: la?  
1SG.ERG such=NMLZ matter know.FD Q

俺がそんなこと知るか! (直:俺がそんなこと知っているか?)

ネパール語では、動詞が絡む文の場合、反語では諾否疑問文が用いられる。

(30) थ्व दय्कूमह मां खला? मखु, जि दय्कागु का।

thwə de:ku:=mhə mā: khə-la? mə-khu, jī: de:k-a=gu  
this make.NFND=NMLZ mother COP-Q NEG-COP.NFDN 1SG.ERG make-NFC=NMLZ  
ka.

SFP

これを作ったのは、お母さんだよな?いいえ、私が作ったのよ。

「ではないか」という意味の付加疑問文では, mə-khu la? [NEG-COP.NFND Q] という表現を使うが、話者の確信度の高い、かつ、同意を求める付加疑問文では, khə-la? という形式を使う。これは、本来 khə: la? [COP.NFND Q] 「ですか?」という確認の意味の表現だが、それが音韻的に縮り文化化したものと思われる。発音も、早く発音すると /khəla/ ではなく、/həla/ となることが多い。

#### 4. おわりに

以上、本稿ではカトマンズ・ネワール語のアスペクト・モダリティに係る表現を見てきた。ネワール語は、定動詞の活用は日本語と異なるが、複合的なアスペクト・モダリティ表現では日本語の表現パターンに似ているものが多い。特に日本語のテイルに相当する V-CM *cwən-e* は、日本語と同じく動作継続と結果状態を表す点で興味深い (Kiryu 2018)。また、質問票では現れなかったアスペクトやモダリティの表現もある。詳細は、Hale and Shrestha (2006) や桐生 (2002) を参照されたい。なお、本稿を作成するにあたり、Mina Shakya さんにご協力いただいた。深く感謝したい。

#### 参考文献

欧文

Hale, Austin and Kedar P. Shrestha. 2006. Newār (Nepāl Bhāsā), LINCOS EUROPE.

Kiryu, Kazuyuki. 2001. "Types of verbs and functions of the causative Suffix-k in Newar". *Kobe Papers in Linguistics*, 3, 1-9.

Kiryu, Kazuyuki. 2018. "20. Continuous aspects in Japanese, Newar and Meche". In Prashant Pardeshi and Taro Kageyama (eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*. De Gruyter Mouton, 589-610.

和文

風間伸次郎. 2020. 「英語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」東京外国語大学語学研究所『語学研究所論集』25, 139-171.

桐生和幸. 2001. 「ネワール語のテンス・アスペクトをめぐって」『美作女子大学紀要』34, 45-56.

桐生和幸. 2002. 『ネワール語文法』(ネワール語研修テキスト2). 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.

桐生和幸. 2004. 「否定状況への変化を表す表現の対照研究」影山太郎・岸本秀樹編『日本語の分析と言語類型』, 421-436, くろしお出版.

執筆者連絡先 : kiryu@mimasaka.ac.jp

原稿受理 : 2023 年 1 月 17 日